富士市の当初予算

新市30周年

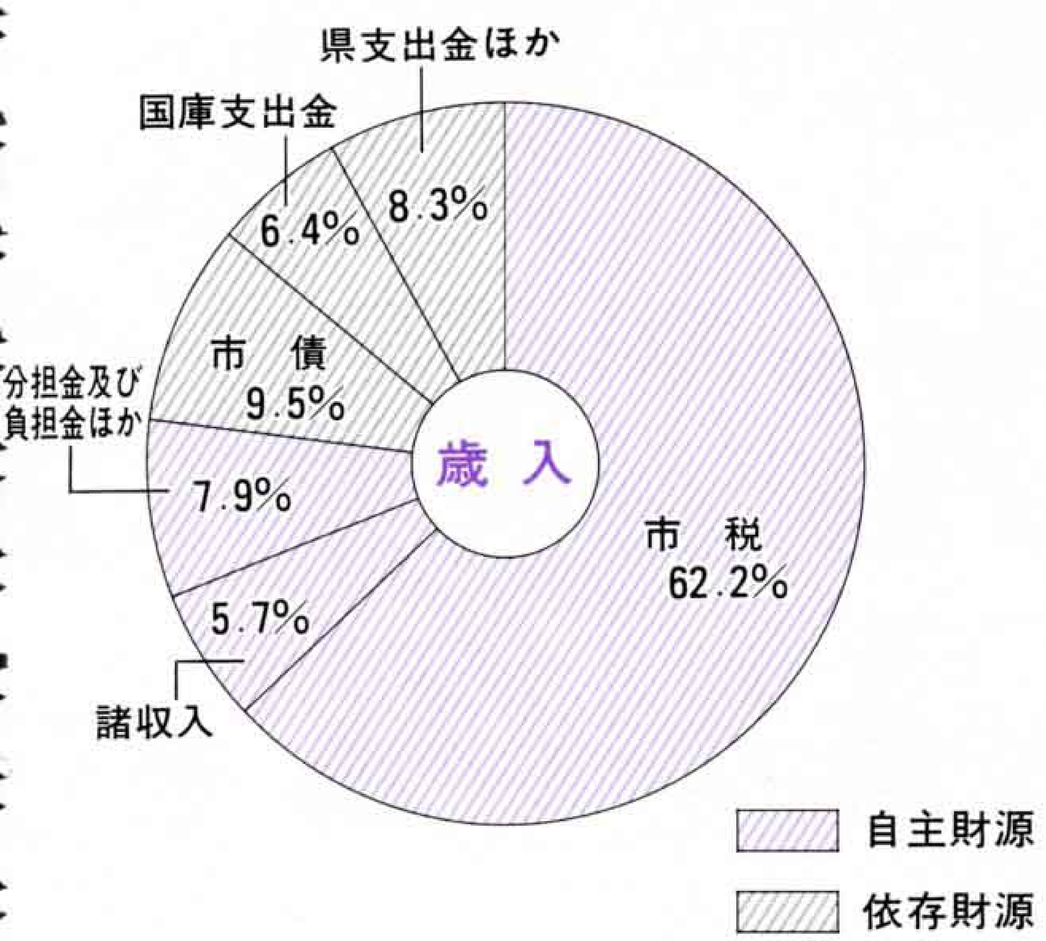
平成八年度予算は新世紀への夢と希望を育(はぐく)むために

ことしは、新市施行三十周年の節目の年。市は、未来を担う子供たちのために、富士市をより健康で、明るく住みやすいまちにしようと、さまざまな事業に力を注いでいます。ことしの予算は、新世紀への夢と希望を育むことに重点を置き、編成されています。予算のあらましをごらんください。

市の予算には、一般会計と特別会計、企業会計があります。

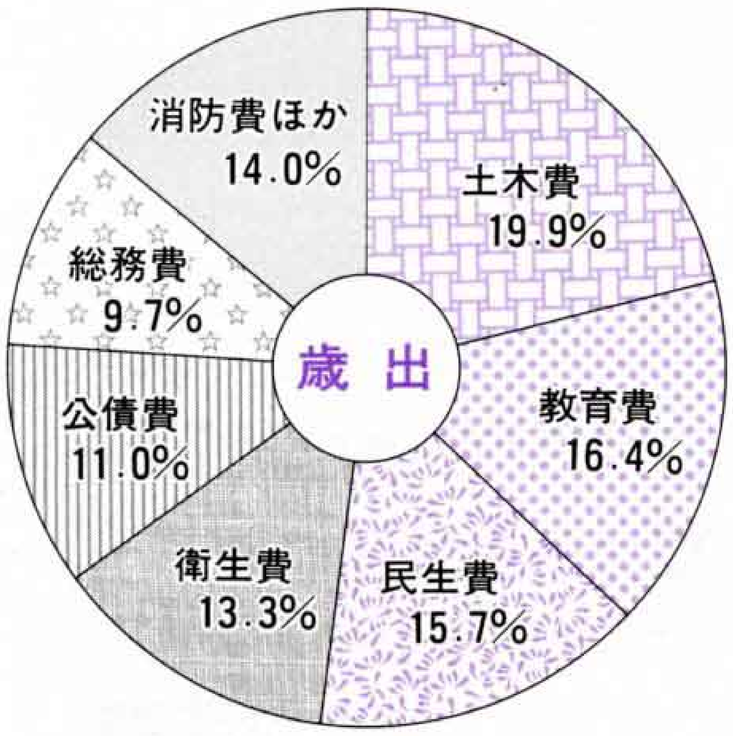
一般会計とは、市税収入を主な財源として、道路、教育、福祉などに使う会計のことです。

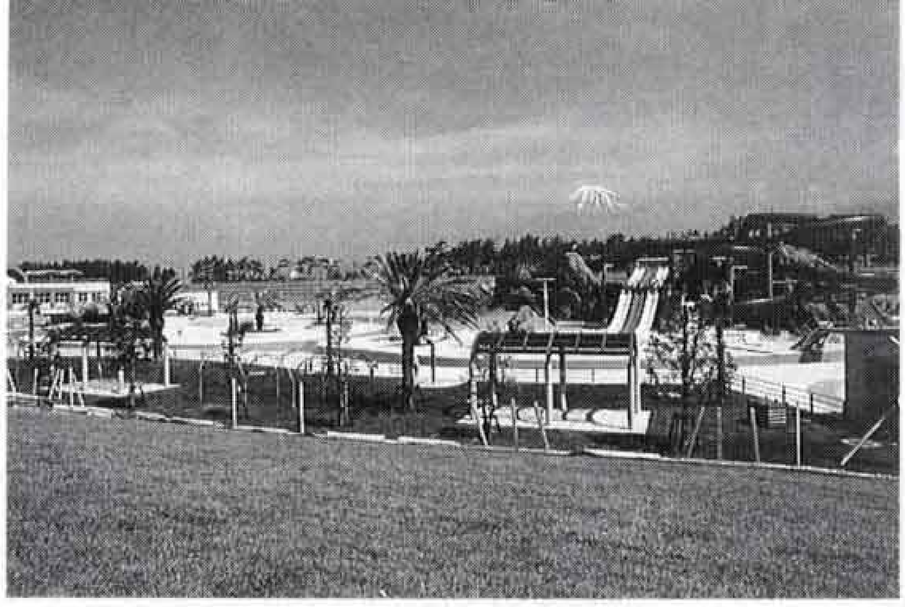
財源別歳入　675億円



平成8年度　一般会計

目的別歳出　675億円





富士マリンプールは
6月15日にオープン

一般会計は675億円

歳入

会計年度内に入ってくるお金

科目別		収入金額
総額		675億円
市税	(市民税・固定資産税など)	420億110万円
市債	(市の借入金)	64億4,320万円
国庫支出金	(国からの補助金など)	42億9,929万円
諸収入	(貸付金元利収入など)	38億3,020万円
県支出金	(県からの補助金など)	21億2,350万円
地方譲与税	(国から地方に譲与されるお金)	18億4,500万円
分担金及び負担金	(施設入所者の負担金など)	18億3,069万円
使用料及び手数料	(市営住宅使用料など)	16億7,925万円
繰越金	(前年度からの繰越金)	10億円
利子割交付金	(県から交付される利子割県民税)	7億4,000万円
その他		17億777万円

※会計年度（4月1日～翌年3月31日）

歳入の約六割は市税

一般会計の歳入で一番多いのは、市民の皆さんから納めていただく市民税や固定資産税などの市税です。全体の六二・二%を占めており、前年度より一・八%増を見込んでいます。

ことしは、法人市民税の伸びが期待できないことや、昨年に引き続く市民税の減税措置などから、財政調整基金の取り崩しや市債の活用などで、財源確保に努めました。

富士市では、税金などの自主財源は七五・八%。国の補助金や借入金などの依存財源は二四・二%となっています。

歳出

会計年度内に使うお金

科目別		支出金額
総額		675億円
土木費	(道路や公園などの整備に)	134億1,420万円
教育費	(学校整備や社会教育に)	110億3,469万円
民生費	(社会福祉などに)	105億7,489万円
衛生費	(ごみ処理や病気の予防に)	89億9,398万円
公債費	(借りたお金を返すために)	74億2,109万円
総務費	(庁舎管理や人件費などに)	65億7,949万円
消防費	(消防・水防・防災のために)	33億3,961万円
労働費	(働く人のために)	21億5,311万円
農林水産業費	(農林業や水産業のために)	17億2,984万円
商工費	(商業や工業の発展のために)	15億8,394万円
議会費	(議会の運営のために)	5億7,202万円
その他		1億314万円

歳出のトップは土木費

歳出を目的別に見ると、今年度は、都市計画事業や公園の整備などの土木費がトップで、歳出の一九・九%を占めています。

土木費の主なものには、二市一町の合併記念公園である広見公園の整備、市道や都市計画街路の新設・改良、河川の改修などがあり、快適なまちづくりのために使われます。

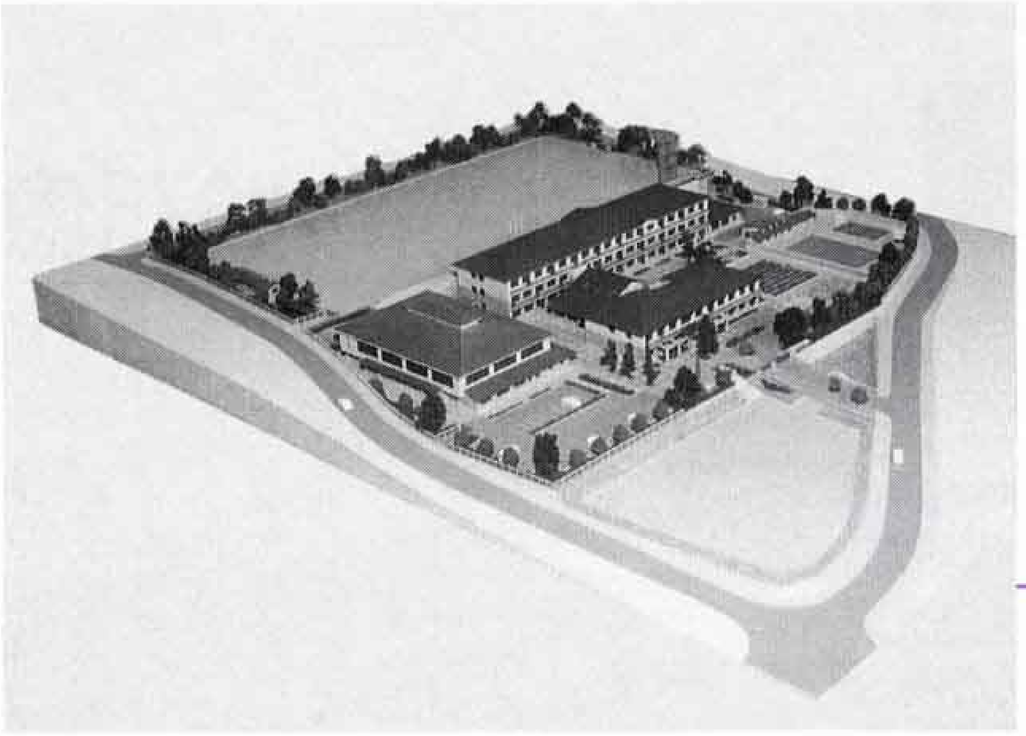
次に多いのは教育費で、平成十年度の完成を目指して整備を進めている※青葉台小学校や、六月十五日にオープンする富士マリンプールの建設などが、大きな事業となっています。

※六月議会で正式に名称決定の予定

市民１人当たりに使うお金の内訳

平成８年度　一般会計予算から

※平成８年４月１日の人口23万3,542人で算出



平成十年度に開校する青葉台小予想模型

❶土木費
道路や公園などの整備に
５万7,438円

❷教育費
学校整備や社会教育に
４万7,249円

❸民生費
社会福祉などに
４万5,280円

❹３万8,511円・衛生費（ごみ処理や病気の予防に）
❺３万1,776円・公債費（借りたお金を返すために）
❻２万8,173円・総務費（庁舎管理や人件費などに）
❼１万4,300円・消防費（消防・水防・防災のために）
❽　　9,219円・労働費（働く人のために）
❾１万7,081円・農林水産業費、商工費など

市民１人当たりに使うお金
28万9,027円 ＞ 市民１人当たりの市税負担額
17万9,844円

企業会計　特別会計

行政の基本的な経費を一般会計といい、特定の事業ごとに分けて、別個に会計を設けている事業費を特別会計といいます。

富士市には、十六の特別会計と二つの企業会計（水道事業・病院事業）があります。左の表では、財産管理特別会計（内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田）を省略しています。

特別会計の予算額　**353億9,004万円**

前年度から8.9%の伸び

会計区分	予算額
老人保健医療事業	120億1,000万円
国民健康保険事業	114億2,500万円
下水道事業	97億3,200万円
富士中部土地区画整理事業	10億6,000万円
公共用地先行取得事業	5億　384万円
地方卸売市場事業	2億4,350万円
駐車場事業	6,400万円

水道事業の予算額
42億7,232万円

病院事業の予算額
124億4,415万円